〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第97号 平成29(2017)年3月1日

資料見聞

落款あれこれ

古書画を鑑賞する際、理屈抜きに作品そのものの魅力を感じたいという方は多いと思いますが、是非注目していただきたいのが落款です。

落款とは、「落成款識」の略語です。中国や日本などの書画にみられるもので、作者が作品を完成させた時、画面端の空間に署名捺印をしたものを指します。一般的には、自身の氏名や、雅号、身分や役職、制作年月日を書くことが多いようです。また、氏名や雅号を独自にデザインした印章を数カ所に押すこともありますが、これを落款印といいます。

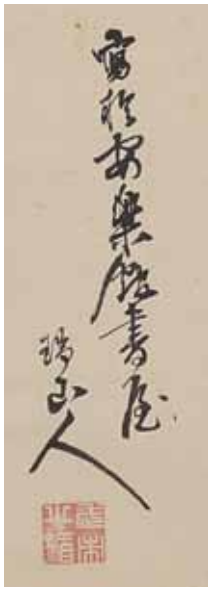
落款は本人以外には記すことができない要素を含むため、しばしば鑑定の決め手としても注目されてきました。

上の二つの落款をみてください。右側は武市半平太の落款と印章（「武市小楯」）です。「安楽館書屋において写す」とあります。安楽館は旅宿ではなく牢屋のことです。行き過ぎた政治運動により逮捕され、「今は牢のなかにあろうとも、あくまで平常心でいたい」という、半平太の意地や信念を感じます。左側は土佐藩参政・吉田東洋の落款と印章（「吉田正秋」）です。「土佐罪人」と記し、蟄居中の身を嘲ったもので、当時の苦しい心情が垣間見えます。

落款に注目し、比較して鑑賞するのも一興ですね。

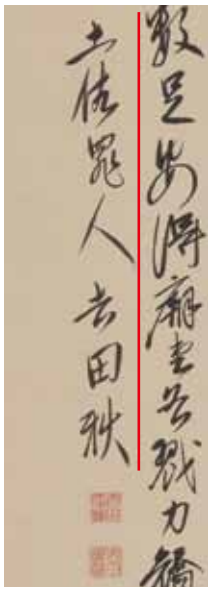
（野本）

※展示資料の中から幾つか落款を選んでみました。ちなみに「今藁駝迂弟」とは誰の作品か当ててみてください。答えは8頁にあります。



寫於安楽館書屋　瑞山人［武市小楯］

武市半平太

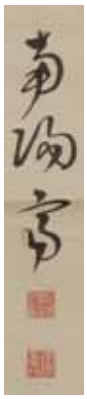


土佐罪人　吉田 秋［吉田正秋］［吉田子悦］

吉田東洋

［藤原豊範ノ印］［字君模］

山内豊範

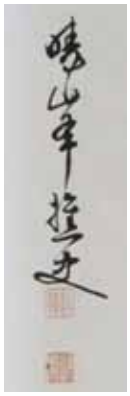


南陽斎［藤原豊著印章］［字章叔］

山内豊著

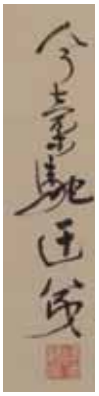
竹村修［竹村修］［東埜］

竹村東野



暁峯樵史［純禮］［和卿］

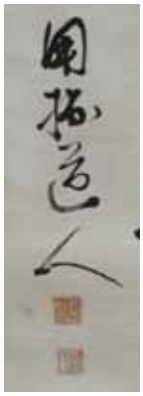
奥宮暁峰



今藁駝迂弟

※「藁駝」はラクダのことです

？



用拙道人［松岡敏印］［欲訥氏］

松岡毅軒

志国高知　幕末維新博 関連企画第1弾

幕末の土佐 ―書跡にみる人物群像― 後期展スタート

2017年3月4日(土)～5月10日(水)

大好評だった前期展に続き、いよいよ後期展が始まります。今回の展覧会では、江戸後期の文化人、幕末期の藩主一族とその重臣、維新の志士といったコーナーに分けて「書」や「手紙」を展示し、それぞれの人物の素顔に迫る内容となっています。

また、藩の重役であった吉田東洋や後に勤王党に加盟する間崎哲馬が実は江戸の大学者・安積艮斎の兄弟弟子であり、他にも30人を越える土佐藩士が安積塾で当時最先端の政治思想を学んでいたことを紹介。単なる「書道展」ではなく、思想史の流れもさりげなく盛り込んでいる点もミソです。

前期展で最も注目されたのが、山内容堂の懐刀、吉田東洋に関する新史料でした。新聞報道でも全国的に取り上げられた「大震行」という漢詩。実は開館直後から収蔵されていたのですが、今回あらためて調査してみたら、とんでもない貴重資料だった訳です。

東洋が江戸で事件を起こし、蟄居していた時に遭遇した安政の大地震。壊滅的な長浜周辺の惨状を見て思わず筆を執ったのでしょう。艮斎の弟子だけあって、その迫力ある描写は秀逸です。

書き出しで、「歳は甲寅の仲冬、海底は墨をひっくり返したように濁り、蛟龍を走らせる…。」という具合に、津波が来る直前の海の異変を独自の表現で表しています。また、禍々しい波の動きを「蛟龍を走らせる」と記すあたりに、東洋の漢詩人としてのセンスもうかがえます。弟子で部下でもあった福岡孝弟も、「この詩を見るとまるで先生が目の前にいるような気がする」と、「震行賛」という漢詩の中で述べていることから、生前の東洋を代表する傑作だったのかもしれません。この作品は後期でも展示しますので、まだご覧になっていない方は是非お見逃しなく。

さて、後期展では、前述した基本構成は変わりませんが、全体の3分の1程度が入れ替わります。まず序盤の文化人のコーナーでは、漢詩人や書家・画家などに代わって、谷真潮や、馬詰親音・今村楽・鹿持雅澄ら、この時代を代表する国学者・万葉学者たちの作品が登場します。

また、最終章では、「華麗なる余技の世界」が丸ごと「形を変えて遺される書跡」に変更。美しい「扇面色紙貼交屏風」（六曲）が登場します。

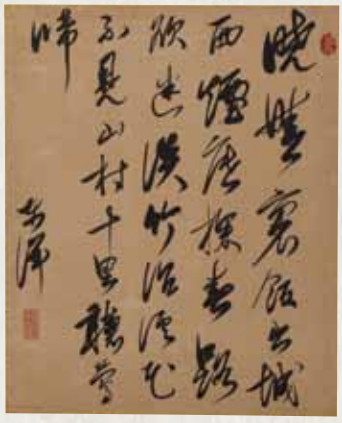
この屏風には、鹿持雅澄の短冊が2枚、山内豊熙のものが1枚と、武市半平太・中山高陽・古屋竹原・葛西鵲巣の扇面が各1枚。徳弘菫斎のものが2枚。楠瀬大枝・山内豊資・吉田東洋の色紙が各1枚、都合12枚の作品が貼り付けられています。

いずれも化政期を中心とする時代に活躍した藩主や志士、文人墨客の面々ですが、政敵であった吉田東洋と武市半平太の作品が上下に貼り付けられているあたりは、まさに「呉越同舟」といった風情ですね。

いったい誰が何の意図をもって制作したものかは不明ですが、今回の展覧会そのものを表現しているかのような本作品にも是非ご注目ください。

（野本）

武市瑞山扇面


吉田東洋七言絶句

黒田虎関…漢詩人
徳弘保孝（石門）…画家

扇面色紙貼交屏風

①鹿持雅澄　②古屋竹原　③山内豊資　④徳弘董斎　⑤山内豊凞　⑥武市瑞山
⑦徳弘董斎　⑧鹿持雅澄　⑨中山高陽　⑩楠瀬大枝　⑪葛西鵲巣　⑫吉田東洋

夏藤

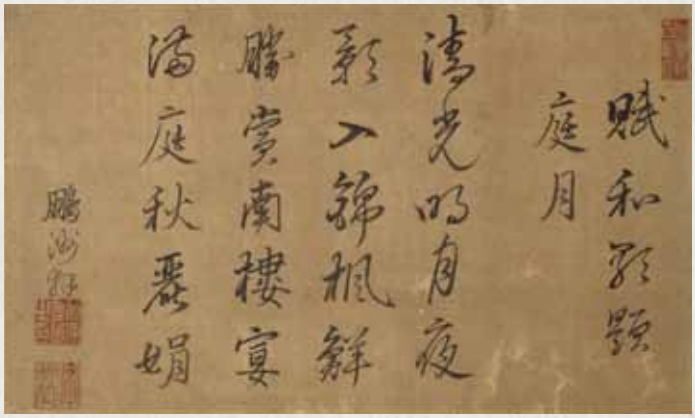
見し春の名残をとめて松か枝に
なつかけて咲る藤浪の花　豊熙

よろつよにうかへのまむとうめのはな
さけるやまへにいへをらすらし　雅澄

待酒をかみしもしるくきくの花
たをりもちつゝ君かきませる　雅澄

山内豊凞短歌　鹿持雅澄短歌　鹿持雅澄短歌

徳弘董斎扇面



山内豊資五言絶句

葛西鵲巣扇面

志国高知　幕末維新博 関連企画第２弾

志士 幕末を駆ける ―半平太らの遺したもの―ご案内

２０１７年５月27日(土)～７月２日(日)

「志士」とは、『日本国語大辞典』（小学館）によれば、「高い志を持った人。また、国家、社会のため自分の身を犠牲にして力をつくそうとする人」を指します。ことに、黒船来航にゆれる幕末の世。日本の歴史上、もっとも志士が誕生した時期といえるでしょう。

江戸や京から遠く離れたここ土佐でも、たくさんの志士が誕生しました。そのなかで一番大きな勢力といえば、武市半平太が中心になって結成した土佐勤王党です。新しい時代の実現を目指した活動もむなしく、明治という新しい世をみることなく、その人生に幕を閉じます。そんな彼らの生き様を様々な資料を展示しながら紹介します。

ただ、そんな難しいことを言われても興味が持てないなという、そこのあなた！本展では、土佐が誇る志士の生き様を、みなさまによりわかりやすく解説するため、強力な助っ人をお願いしています。それは、武市半平太が主人公として登場する漫画「サムライせんせい」（リブレ刊）です。

歴民館初の漫画キャラクターとのコラボ企画。いままでとは、ひと味違った展示をご期待ください。

（石畑）

酒飲みの容堂を「逆さひょうたん」に見立てた
４日付 冨宛武市半平太書状（当館蔵）

作者　黒江Ｓ介先生プロフィール

大阪府大阪市出身。

コミックス「サムライせんせい」1巻を2014年11月に発売し、2015年にはＴＶドラマ化された。

2016年2月より高知へ移住し創作活動中。

pixivコミックにて連載中 https://comic.pixiv.net/works/741

公式WEBサイト http://samurai-sensei.jp/

コミックス公式Twitter @samurai__sensei

(c)Esusuke Croe/Libre 2017

トピックス

今村楽の書簡が寄贈されました

化政期を代表する国学者で歌人の今村虎成（とらなり）、通称楽（たのし）（１７６５－１８１０）の書簡が寄贈されました。当館の初代館長・吉村淑甫氏が生前所蔵していたものです。

この書簡の特徴は、平易な仮名文字を用い、万葉調の流れるような文体で書かれていることです。楽は国学者であると同時に万葉集の研究者でもあったので、このような文体を好んだのでしょう。

内容は、藩の役務により在京していた時、土佐にいる門人たちに宛てたものです。遠方の師に対し、門人たちは遠慮なく歌文の添削や様々な質問をし、書籍購入の依頼までしていたようで、楽は実に優しく丁寧に答えています。

師匠と門人といっても、厳格な上下関係ではなく、ともに学問を楽しむ仲間といった風情で、この時代の文化の担い手の実態を現しているようにもみえます。

楽は、享和３年（１８０３）大坂で「古万葉集」を刊行していますが、本書簡は、その時に認めたものかもしれません。

後に同僚の不始末に連座して名字帯刀を剥奪され、四万十川以西に追放処分となった楽。晩年は不遇であり、短い人生ではありましたが、その偉業は多くの門人たちに受け継がれます。（野本）

今村楽書状（部分）

志国高知　幕末維新博　速報

「堺事件」を取り上げます！

幕末の動乱期に泉州堺で勃発した「堺事件」を皆さんご存じでしょうか。

これは、明治元年（１８６８）２月15日、堺の警備をしていた土佐藩兵が、突如上陸してきたフランス軍水兵を銃撃したことによる一連の事件を指します。平成30年がちょうど事件発生から150年目に当たることから、「幕末維新博」の関連企画第４弾として取り上げることになりました。

鳥羽伏見の戦いの後、箕浦猪之吉（みのうらいのきち）率いる土佐藩八番隊は急遽堺の警備に当たることになりました。箕浦は当時25歳。高知城下潮江村に生まれ、若年ながら藩校致道館の助教を務めるほどの秀才でした。そもそも箕浦家は代々儒学者を輩出してきた家柄で、他にも土佐藩教授方の箕浦小石（しょうせき）・耕雨（こうう）・居南（きょなん）といった人物を出しています。尊王攘夷思想に燃えていた彼が、国内各地に出没する外国船や異国人に対して相当過敏になっていたことは容易に想像できます。

当館には、事件の後に切腹させられた箕浦の辞世や書状が収蔵されています。加えて六番隊長だった西村左平次（さへいじ）の遺品もあることから、今回の企画展で一堂に展示します。また、事件の現場となった堺市の公的機関や妙国寺からも、幕末の堺の様子がうかがえる資料や、切腹時の藩士の遺品などをお借りし、リアルな事件当日の再現に挑戦します。

堺事件といえば、切腹の壮烈さばかりが注目されがちですが、当時の国内外の情勢や、切腹を免れた藩士たちのその後など、多角的な視点も盛り込み、この事件の本質に迫りたいと思います。（野本）

石柱と妙国寺

郷土人形作家直伝！
土佐和紙漆喰張り子　とりの絵付

もの作りの喜びにふれるワクワクワークは、当館の人気企画です。多くはお子さんを対象としていますが、干支張り子の絵付は郷土人形作家から手ほどきを受けるという通好みのメニューだからでしょうか、大人の方の参加がほとんどです。

今年もコーナー展「干支の玩具」の開催にあわせて講師に草流舎（代表・田村雅昭さん）の田村多美さんをお迎えし、土佐和紙漆喰張り子の特徴や絵付のコツをお教えいただきました。

なお、今年のモチーフはチャボで、天然記念物の鶉矮鶏（うずらちゃぼ）は草流舎のある吾川郡いの町の原産と伝えられているとのことです。

一筆で勢いよく描いて羽根や尾の感じを出したり、最後に入れる黒目はちょっとずらして表情を出したり、さまざまな絵付の工夫を直に教わる機会とあって、黙々と作品に向かう方、先生やお隣と笑顔で語らい進める方など、参加された方々は皆さん熱心に、楽しそうに取り組んでいました。

うさぎ年からはじまり7年目の企画には毎回ご参加の強者や4、5回目の常連方もおられ、十二支揃えようと楽しみにされている様子がうかがえました。また、はじめての方もわかりやすい先生のご説明により、かわいいチャボができて満足そうでした。

ボランティアスタッフのカルチャーサポーターも、はりきってサポートしていました。

次回の戌の絵付は、ご自分で絵付した干支の張り子を正月に飾りたい方もいらっしゃると思い、今年の12月9日に計画しています。事前予約制で30名定員の予定です。

どうぞご参加ください。（中村）

2017.1.21　かわいくなる絵付のポイントは…

地域連携　みんなの民具 in 東洋町

当館では、東洋町、高知県立大学と3者協定を結んで、町の所蔵する民具の整理作業に協力しています。2009年に新入生（当時は女子大）のバスハイクの一環で民具調査を行ってから地道に調査を重ねてきました。7年目の今年は、橋尾直和先生のゼミに所属する学生さんを中心としたグループ「from ZERO（フロム・ゼロ）」が、同大の「立志社中」の助成金を得て、地元での展示会を開催しました。

民具を保管している「なごみ」（旧室戸高校甲浦分校）の体育館に民具を並べ、12月16日には甲浦小学校の子ども達が地元のお年寄りに民具の使い方や昔の暮らしの話をうかがいました。17日は一般公開。百人を超える方が町の内外から訪れました。学生に使い方を教える人がいたり、昨日来た小学生がお母さんを連れて来たり、終日なごやかに民具をめぐる話の輪が出来ました。（梅野）

体育館が展示室に早変わり！展示構成から企画進行まで学生たちのセンスが光っていました。

地元の方が、小学生に実演しながら説明。

足踏み脱穀機体験は人気殺到！

れきみんのお正月

恒例の「れきみんのお正月」が1月2日に開催されました。

2階正面玄関が工事中だったため、今年は門松の設置はできませんでしたが、歴民グッズくじ引きで新年の運試し、福を〝とり〟こむ干支の酉にちなんだマスコット人形を作るワークショップには、たくさんのお客様にご参加いただきました。

コマ回し体験では、名人によるパフォーマンスが始まるとその技の数々に夢中になる方が多数！抹茶のサービスや、石臼を使ったお茶挽き体験も開催。初めて使う石臼にお子さんも興味津々でした。もとちか君のサプライズ登場、コーナー展のミュージアムトークなど、楽しくにぎやかなお正月となりました。

ご来館、ありがとうございました。

（式地）

第8回岡豊山さくらまつり

4月1日（土）、2日（日）の2日間、岡豊山春の恒例イベント「第8回岡豊山さくらまつり」を開催します。

中庭特設ステージでは吹奏楽やダンスなどのステージイベントが盛り沢山、また、この4月から櫓がお目見えする岡豊山を解説案内付きで歩くガイドツアーもあります。

さらに、高知のグルメが目白押しの「土佐の食1グランプリ」も同時開催。おいしいものから音楽や歴史まで、桜の名所・岡豊山を一日中お楽しみいただけます。

なお、さくらまつり開催中の2日間は、一般車輌は進入禁止となるため、高知大学医学部東駐車場と高知駅前それぞれを発着する無料のシャトルバスで岡豊山会場までお越しください。

れきみんニュース

平成29年度の歴民はここに注目!!
れきみんスタンプラリー＆秋の特別展

★れきみんスタンプラリー

平成29年と翌30年は、江戸幕府が政権を朝廷に返還した大政奉還と明治維新からそれぞれ150年の節目の年となります。そのため、幕末から明治維新にかけて多くの偉人を輩出した高知県では、2年間にわたり「志国幕末維新博」を開催することとしています。当館はこの博覧会の地域会場として、幕末維新に関連した展覧会やイベントを実施します。

そのひとつとして、3月から「れきみんスタンプラリー」がスタートしました。平成29年度に当館が開催する5つの企画展・特別展の鑑賞と、4月から岡豊城跡に登場する櫓の見学をしていただくとオリジナルスタンプをそれぞれ1つ押印します。押印数によって、当館の招待券や図録、オリジナルグッズが当たる、はずれなしの抽選に参加できます。スタンプラリーの台紙は県内文化施設等で配布しているほか、当館ホームページからもダウンロードできます。

★特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」今秋開催決定!!

日本では現在、臨済宗、曹洞宗、黄檗宗の3つに大別される禅宗は、鎌倉時代に中国から日本に伝わりました。室町時代には、天皇家や将軍家、武家との結びつきを強力にし全盛期を迎えますが、その裏側には土佐出身のふたりの高僧の活躍があったことをご存知でしょうか。また、長宗我部元親も禅宗に帰依した武将の一人でした。

臨済宗中興の祖・白隠禅師（1686－1769）の250年遠諱にあたる本年、本県とゆかりの深い禅宗に焦点を当てた特別展を開催します。本展では、禅宗の誕生から日本での隆盛、明治維新期の衰退を越え今も日本文化のなかで生き続けている禅文化を国宝、重文を含む多彩な作品でご紹介します。中四国では初公開となる妙心寺、相国寺、南禅寺といった京都各本山の珠玉の名宝と、県内で守り継がれてきた貴重な寺宝の数々を一堂に拝観できるまたとない機会です。

詳細は当紙面、ホームページなどで随時公開していきます。

（会期：平成29年10月14日～11月26日）

（那須）

当館が立地する岡豊山は、戦国武将・長宗我部氏が居城とした地であり、岡豊城跡は国の史跡指定を受けています。このたび、「志国高知　幕末維新博」の開催にあわせて、岡豊山の山頂部（詰の段）に櫓（やぐら）をあげることになりました。

残念ながら岡豊城に関する資料が残っていないことから、復元ではありませんが、標高９７メートルの山頂に建つ櫓から、長宗我部氏の目線で眺望を楽しんでいただけます。

さらに、岡豊城跡を始め岡豊山歴史公園をガイドする案内人を配置しますので、自然散策しながら歴史のロマンに浸ってください。

（館長）

第8回 長宗我部フェス

5月20日(土) 10:00～16:00

岡豊山に居城を構えた戦国武将・長宗我部氏を盛り上げるイベント。甲冑武者や鉄砲隊の登場を始め、演劇や声優トークショーなど長宗我部一色の1日！

まほろばウォーク

参加費・申込要。

カルチャーガイドとともに、「土佐まほろば」地区を歩きます。

●4月20日(木) Aコース　●5月4日(木･祝) Bコース

新 れきみんサークル 会員募集中

◎年会費2,000円／通常展・自主企画展へのフリーパス付

◎『岡豊風日』やチラシを定期的に送付します！

新　刊　紹　介

研究紀要

高知県立歴史民俗資料館研究紀要第21号

Ａ４版

- 論　　文「土佐藩における「諸国城割令」の受容と破城」…石畑匡基
- 研究ノート「長宗我部信親発給文書に関する若干の考察」…野本　亮
- 史料紹介「第２回ブラジル移民船旅順丸の航海日誌」……石畑匡基

岡豊風日（おこうふうじつ）　第97号
平成29年3月1日
編集・発行　（公財）高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783－0044
南国市岡豊町八幡１０９９－１
ＴＥＬ　０８８（８６２）２２１１
ＦＡＸ　０８８（８６２）２１１０
開館時間　午前９時～午後５時
休館日　年末年始12月27日～１月１日
観覧料　臨時休館あり
（通常展）大人（18才以上）460円
団体（20人以上）360円
（特別展・企画展）通常展込510円
団体（20人以上）410円
無料：高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者（１名）
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成29年 3月～6月の催し

企画展 幕末の土佐 ―書跡にみる人物群像―

志国高知 幕末維新博関連企画第1弾！

後期展いよいよスタート！　5月10日(水)まで

後期展では、もっと他の史料を見たいというご要望に応え、これまで以上に展示資料をパワーアップしてまいります。連続講座や展示解説なども充実しておりますので是非一度ご来館ください。

「今橋駝迂弟」の答え.福岡孝弟（ラクダに似てますか?）

コーナー展のご案内

幕末維新博関連企画！

●**総合展示室**（3F）

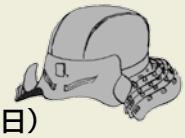
「山内容堂と坂本龍馬の遺品」3月11日(土)～6月2日(金)

「土佐に影響を与えた人びと」6月3日(土)～8月30日(水)

●**長宗我部展示室**（2F）

「国史跡・岡豊城跡」4月20日(木)～

「頭形兜（ずなり）の世界」4月28日(金)～8月13日(日)



第6回 旧大栃高校民俗資料一般公開

6月3日(土)、4日(日)　10:00～16:00

香美市物部町の旧大栃高校に保管している当館所蔵の民俗資料約２千点を年1回特別公開しています。民具のお話を聞いたり、民具に触れて、高知の伝統文化を学んでみませんか？

5月3日(水･祝)は 歴民の日

観覧料は無料です

当館は平成3年5月3日に開館しました。開館記念日の5月3日は全館入館無料です。「歴民クイズの陣」など、楽しいイベントも開催します。

カルチャーサポーター募集

ワクワクワークや学校の体験学習などのお手伝いをしてくれるボランティアを募集（4月、10月）しています。

告知 企画展 志士 幕末を駆ける ―半平太らの遺したもの―

志国高知 幕末維新博関連企画第2弾！

5月27日(土)～7月2日(日)

武市半平太所用刀

サムライせんせい

土佐勤王党（とさきんのうとう）の盟主・武市半平太（たけちはんぺいた）を中心に、明治維新（めいじいしん）を見ることなく、夢半ばに斃（たお）れていった志士の資料を展示。

漫画「サムライせんせい」（黒江Ｓ介著・リブレ刊）とのコラボ企画！！